

事業番号	386
------	-----

平成26年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	講座開催事業						担当部	教育委員会事務局				
	会計区分	一般会計			事業類型	一般		担当課	東部市民センター				
	事業期間	平成12年度以前			～	平成30年度以降		担当係	庶務係				
	総合計画 分野別計画	主目的	4 教育文化		16 生涯学習		1 学習の機会を提供します						
		副目的											
	予算区分	款	10		項	5		目	2		大	5 中 4	
	根拠法令・個別計画	社会教育法第22条、公民館法											
	目的 (対象をどの様な状態にするのか)	市民に対して様々な学習の機会を提供し、いきがいのある暮らし、住みよいまちづくり形成の一助とする。											
	内容 (手段)	<p>○25年度実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民講座開催 市民講座は2期に分けて各4コース実施。1コースは原則週1回及び、各週1回、約2時間で延べ58回 前期 4講座(おもてなし料理、バレトン、風雲児信長と小牧山城、バルーンアート) 計27回 後期 4講座(ポーセラーツ、ボディメイク、本格イタリア・スペイン料理、大正琴) 計31回 短期講座 (美味しいパンと本格イタリアンのプチランチコースづくり、平安時代の女性達の実像に迫る)計 2回</li> <li>・ゆうゆう(高齢者)学級、つつじ(女性)学級 各20回 市民講座は1講座5回～10回で、受講料は1回当たり150円 ゆうゆう学級・つつじ学級の受講料は年間3000円 担当職員は、講座の企画から講師依頼、受講者募集、受講料の徴収、講座開催日の受付等の事務を行っている。</li> </ul> <p>○25年度直接経費の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>講師謝礼(984千円)</li> <li>旅費(9千円)</li> <li>消耗品、食糧費(16千円)</li> <li>バス借上げ等(305千円)</li> <li>【その他財源の内訳】</li> <li>講座受講料(100回:601千円)</li> </ul> <p>○26年度直接経費の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>講師謝礼(1,110千円) 旅費(19千円)</li> <li>消耗品、食糧費(19千円) バス借上げ料等(219千円)</li> <li>【その他財源の内訳】</li> <li>講座受講料(517千円)</li> </ul>											
	受益者負担	有 受講料として150円×開催回数、材料費は必要に応じ徴収 ゆうゆう学級、つつじ学級、年間3,000円											

		単位	H23決算額	H24決算額	H25決算額	H26予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	1,064	1,254	1,314	1,367	
		正職員	従事者数	人	0.55	0.55	0.55	0.55
			人件費	千円	2,893	2,893	2,893	2,893
		その他職員	従事者数	人	0.10	0.10	0.10	0.10
			人件費	千円	334	334	334	334
		費用合計	千円	4,291	4,481	4,541	4,594	
	対前年比	%		104.4	101.3	101.1		
財源	一般財源	千円	3,843	4,055	3,940	4,077		
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他財源	千円	448	426	601	517		

業 績	活動指標名		単位	H23	H24	H25	H26
	市民講座開催数	回	目標	65	63	63	63
			実績	62	63	60	
	女性学級	回	目標	20	20	20	20
			実績	20	20	20	
	高齢者学級	回	目標	20	20	20	20
			実績	18	20	20	
	成果指標名		単位	H23	H24	H25	H26
	受講者数(市民講座)	人	目標	250	250	250	250
			実績	192	175	255	
受講者数(女性・高齢者学級)	人	目標	100	100	100	100	
		実績	100	100	100		

事業の自己評価	平成25年度の 実施結果	事業の達成状況	市民講座については、講座により応募者数にかなりのばらつきがあったが、応募の少なかった講座を多かった講座がカバーする形で、昨年度の応募者に比較すると、全体では約46%受講者が増えて目標達成に至った。女性・高齢者学級については、各50人の受講者に対し、それぞれ応募総数は、定員を大きく上回ったが、最終的に抽選を行い、定員どおり、50人ずつで開講した。また講座終了後、自主サークルが5グループ立ち上がった。				
		事業実施における課題	講座内容等により、応募人数にかなりのばらつきがあるので、より、受講生側のニーズを知る為に今後もアンケートを実施し、市民目線の講座企画を行う必要がある。他部署と講座内容が重複しないように努め、幅広い年齢層に受講してもらえるようにする。				
		事業を縮小・廃止したときの影響	社会教育法第20条、第22条により、)公民館の目的、目的を達成する為に事業を行うことが明記してあり、その事業を縮小・廃止する事は、公民館の存在意義を問うことにもつながる。				
	平成26年度の 改善内容	26年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	アンケート結果を踏まえつつ、“人づくり”“地域づくり”を通して地域の教育力向上につながるような講座や、現在の社会情勢等に即した講座を企画した。また、平成25年度経営分析の結果をもとに必要な改善に取り組む。				
	平成27年度の 事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)			
		判定理由	社会教育法・公民館としての意義を守り、生涯学習の拠点としての役割を発展させ、やがては、住民の自主的な活動を育成し支援していくため、今後も事業を継続していく必要がある。				
27年度以降の改善案		地域の教育力向上に寄与するような講座や地域ブランドコンセプトを意識した講座等その内容を充実していく。					

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。講座開催事業については、25年度に実施した経営分析の結果を基に改善に取り組むこと。ゆうゆう学級・つつじ学級については、他施設のゆうゆう学級と受講者が重複しないように調整を行うこと。